

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	おおさかふりつせこうとうがっこう				②所在都道府県	大阪府
27～31	① 学校名	大阪府立能勢高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	6クラス 155人	
総合科	53	56	46		155		
⑥研究開発構想名	国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材研究						
⑦研究開発の概要	<p>国際協力を受ける当事者と支援する外部者の協働のあり方を理解するとともに貧困が引き起こすストリートチルドレンの人的、経済的支援のあり方の相違、経済発展の中で破壊される自然環境の保全に対する当事者と外部者との対立と調整のあり方を理解し、双方の立場に立って意見を述べることによってグローバル・リーダーとしての判断力を磨く。また、国際協力の実践を多角的に学び大阪府民、能勢町民、能勢高校生、人間としてできることを考える。さらに、クアラルンプール大学、大阪大学、大阪教育大学、海外姉妹校等と連携し協議、ワークショップを重ねグローバル・リーダーとしての実践力を培う。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標 (目的) ①国際理解・国際交流に力を注いできた能勢高校の経験、関係を活かす研究開発（活かす） ②これまでの教育内容を深化・発展させる研究開発（深化する） ③自らが課題に直面し考え実践する力を育てる研究開発（実践する） ④国内外大学との連携の中でグローバルな課題をともに考える研究開発（ともに考える） ⑤能勢町民とともに進める研究開発（ともに働く） (目標) ①現状を理解しグローバルな見識を持って判断できる生徒の育成 ②地域課題に直面し国際協力の手法を活用し実践できる生徒の育成 ③グローバルな視点を持って地域で協働できる生徒の育成 ④グローバルな現場で能勢町や能勢高校を語れる生徒の育成</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説 本校は、平成13年度から能勢町立の東中学校と西中学校とともに中高一貫教育推進校の指定を受け、実践的な研究を開始し、大阪府公立学校で初の連携型中高一貫教育をスタートさせ、普通科・園芸科から総合学科に改編。5ヘクタールの農場を有し、ブドウ・クリなどの果樹栽培、羊の飼育、養蜂、里山保全など地域の特性を活かした教育を推し進めている。国際社会で活躍できるグローバルな感性を身につけるため、国際交流・異文化理解に力を注いでおり、平成22年7月にユネスコスクールに認定。 (仮説) ①子どもの危機、マングローブの危機をみて判断力を育成 ②当事者と外部者が支える地域をみて協働意識を育成 ③地域貢献活動への自主的な活動を促し参加意識を醸成</p> <p>(3) 成果の普及 英語版を含めた本校のホームページ、あるいは関係大学、関係機関のホームページ、SGHのSNSを通じ、逐次進捗状況等を発信する。また、年度ごとに作成した報告書については、関係する大学、機関、高校へ幅広く配布するとともにホームページで公開する。研究開発</p>					

	<p>成果については、年度ごとの中間発表会、発表会に加え、連携中学校をはじめ、能勢町付加価値創造協議会、能勢町住民を対象とした成果発表会を開催し報告する。また、学校農業クラブ主催の研究発表会・集い、ユネスコスクール交流会等も積極的に活用する。マスコミ関係においては、記者発表を積極的に行うこととし、新聞掲載記事等による更なる普及に努める。</p>
<p>⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 課題研究内容 (2) 実施方法・検証評価</p> <p>○テーマ「貧困とストリートチルドレン（モンゴル）」・子どもたちへの教育（H28）・自立的な地域社会の構築と相互連携（H30）「経済発展と自然破壊（マレーシア）」・木炭製造の中で消えゆく森林（H27）・エビ養殖とマングローブの植林（H29）・プランテーションと森林破壊（H31）。PDCA サイクルを活用し、研究開発単位ごと、あるいは年度ごとでの進捗・達成状況を検証した上で、内容・計画を設定していく。</p> <p>①スーパーグローバル基礎知識講座：1年次生（産業社会と人間・農業と環境）2・3年次生（総合的な学習の時間）→外部講師を招へいしての講義やワークショップ等を通じ当事者と外部者の関係を理解し解決すべきグローバルな課題を知るとともに、グローバル人材になるための道筋を理解させる。</p> <p>②スーパーグローバル重点分野講座：2・3年次生（スーパーグローバルスタディ）→「ストリートチルドレン解消、マングローブ植林」などグローバルな課題をテーマにその解決についての課題解決学習。また、大学等との連携により英語による論文作成能力、プレゼンテーション能力を高める。海外姉妹校、能勢町内、農業クラブ、ユネスコスクール、大阪大学外国語学部のイベント等での SGH 活動発表、SGH 中間発表会・最終発表会の他、JICA などでのパネル展示（ポスターセッション）、商品販売支援会への参加を積極的に行う。英語版高校ホームページを創設し、情報配信を積極的に行う。</p> <p>③海外実態調査 2・3年次生（スーパーグローバルスタディ）→モンゴル、マレーシアでの支援活動等を通じ、課題に直面し、当事者と支援者双方を理解</p> <p>④クアラルンプール大学ワークショップ 2・3年次生（スーパーグローバルスタディ）→海外実態調査の報告をもとに大学生等とともに協議し、グローバルな課題を共有</p> <p>⑤海外からの留学生とのワークショップ 2・3年次生（スーパーグローバルスタディ）→グローバルな視点から課題解決を図る</p> <p>*①～⑤について、事前、事後等のアンケートにより生徒の理解度、満足度、変貌等の把握、講座への参加生徒数、英語技能に係る検定の受験等を指標とする。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>教育課程の特例に該当しないが、重点分野講座を実施するため、平成 27 年度以降入学生から、2・3年次に、各 2 単位の自由選択科目として学校設定教科「生涯教養」で学校設定科目「スーパーグローバルスタディ」を開設する。</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 なし</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の実組内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受け入れ体制の充実</li> <li>・クアラルンプール大学との連携</li> <li>・オーストラリア国際交流研修の充実</li> <li>・ユネスコスクール活動の活性化</li> </ul>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>平成 26 年度は、SGH アソシエイト校として、クアラルンプール大学学長との SGH 研究活動受入合意、マレーシアアスンタ高校との姉妹校を提携、大阪国際大学の外国人講師による英語研修会、学生や留学生との交流イベント等を実施。産業社会と人間等の授業で外部講師による「スーパーグローバル基礎知識講座」（14 講座）を開催。</p>

ふりがな	おおさかふりつのせこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	大阪府立能勢高等学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	90人
	SGH対象生徒以外:	50人	50人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 地域福祉施設でのボランティア活動、地域河川清掃活動(環境保護ボランティア)。国際NGOの社会貢献活動に参加。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:	0人	4人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: オーストラリア国際交流研修、クアラルンプール大学英語WS研修。国際交流研修や、(公財)AFSとの連携で短期・長期留学を推進。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	1%	4%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: SG基礎講座、SG重点講座を受講することにより、毎年、将来海外に目を向ける生徒を増やす。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:	11人	10人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 大阪府教委、能勢町、大阪府警、JICA、ユネスコスクール、大阪実業教育協会、農業クラブでの表彰及び入賞。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	0%	2%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 英検2級～準1級取得を軸として各種検定にチャレンジし、英語4技能を磨く。コミュニケーション手段としての英語力を向上させる。									
(その他本構想における取組の達成目標) 英語ワークショップ(英語を媒介としたデイキャンプ、合宿、協議活動)参加生徒数の増加									
f	SGH対象生徒:								80人
	SGH対象生徒以外:	0人	14人						
目標設定の考え方: 連携大学(大阪国際大学、鳥取環境大学、クアラルンプール大学)で実施のワークショップに参加。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:		0%	4%	%	%	%	%
目標設定の考え方: SG基礎講座、SG重点講座、ユネスコスクール活動で国際感覚を磨き、外国語学部、国際関係学部への進学者を増やす。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	人
目標設定の考え方: SG基礎講座、SG重点講座、ユネスコスクール活動で国際感覚を磨き、海外大学進学者数を増加させる。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: SG基礎講座、SG重点講座で国際関係、国際状況について学び、大学でも同じ方面、分野を学びたい生徒を増やす。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: SG基礎講座、SG重点講座で学んだり留学生と学びあったりすることで、留学や海外研修の重要性を考えさせる。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	46人	55人	人	人	人	人	人	90人
目標設定の考え方: SG重点講座に基づく国外研修及び、2年次生全員によるマレーシア海外研修旅行。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	2人	7人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: SG重点講座に基づく国内各地での研修。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	2校	2校	校	校	校	校	校	6校
目標設定の考え方: アスタ高校(マレーシア姉妹校)、マジー高校(オーストラリア)、課題研究関連国(モンゴル、マレーシア)の大学・高校との連携。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	10人	10人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: SG基礎講座、SG重点講座で外部人材の登用や、ワークショップで学生を導入する。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	12人	13人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: JICA関西訪問、OISCA関西研修センター交流。SG基礎講座で17人、SG重点講座で10人の企業、国際関係機関等から講師を迎える。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	3人	6人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: 「ユネスコスクール国際会議やコンテスト」「JICAコンテスト」「高校生ビジネスプランコンテスト」等に参加し、出場者、出場チームを増やす。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	3人	9人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: 現在既に受け入れている短期・長期留学生の人数を増やす。隔年で、オーストラリアから約10人、マレーシアから20人の高校生が来校。								
先進校としての研究発表回数								
h	1回	1回	回	回	回	回	回	6回
目標設定の考え方: 小中高一貫・連携型中高一貫教育研究発表会、総合学科発表大会、農業クラブ発表会、海外(姉妹校、クアラルンプール大学)で発表。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	×	×						○
目標設定の考え方: 「英語版高校HP開設による情報発信」に基づき、フォームも含め完全な英語版を作成する。								
(その他本構想における取組の具体的指標)国際NGO(モンゴルジェンダーセンター、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン、OISCA等)の活動への参加生徒数。								
j	-	-						70人
目標設定の考え方: 世界の諸問題解決に努める国際NGOの活動に参加し、国際貢献をする生徒数を増やす。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	164	155					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							